

## 東京2020大会 都市ボランティア活動時における 新型コロナウイルス等の感染症予防対策に関する提言を発表

一般財団法人日本財団ボランティアサポートセンター(以下、ボラサポ)では、来年の東京2020大会での都市ボランティアの活動時における新型コロナウイルス等の感染症予防対策に関する提言を下記の通り発表します。

本提言は、7～9月に実施した都市ボランティア感染症予防対策研究会における議論を踏まえてまとめたものです。ボラサポでは、この提言をもとに、開催自治体など関係各方面との連携を今後も深めてまいります。

また、これらの感染症対策は、自治体が関連する他のイベント等にも応用可能であり、東京2020大会の無形のレガシーとして、ボランティアが安心安全に活動できるためのマネジメント施策として大会後も活用されることを期待しています。

### ■都市ボランティア感染症予防対策研究会からの7つの提言

～東京2020大会、そしてその先へ。開催都市が都市ボランティアと共に進める感染症予防対策～

※( )内は具体的な取り組み例です。

#### 1. ボランティアと自治体の定期的なコミュニケーションの実施

(コロナ禍における活動不安を低減させるために、オンライン交流の場・情報の提供、オンライン相談等を実施する)

#### 2. 基本的な感染症予防対策の徹底及びボランティアや来場者の多様性に配慮した対策の実施

(聴覚障がい者へのフェイスシールド対応、車いす利用者へのアルコール消毒液の設置場所・高さへの配慮、マスクやアルコール消毒が苦手な方への配慮等、多様性に考慮した対策を実施する。また、多言語に対応した案内等に努める)

#### 3. 休憩時間等の感染リスクが高まる場面におけるマネジメントの徹底

(休憩場所の換気や、飲食などマスクを外す際の感染リスクを考慮した休憩の場の構築、休憩時間等のマネジメントを実施する)

#### 4. 感染症予防対策と気運醸成の両立

(感染症予防対策を積極的に推進し、気運を醸成させ一体感を出すために、関係機関等と連携し、オリジナルグッズ等の開発を検討する)

#### 5. ボランティアの健康増進対策

(ボランティア自ら食事や運動、睡眠など日常の健康づくりを実践するよう促す)

#### 6. 安心してボランティアに参加できるための保証

(ボランティア保険での保障内容の確認等、特にコロナ感染の場合を想定し、安心して活動いただくための保障の構築及びアフターフォローを行う)

#### 7. ボランティアメンバー間でお互いを守り合う気持ちの醸成

(感染症予防対策に関する研修会等の実施により情報提供を行うことで、ボランティアが主体的に感染症予防対策を取れるようにするとともに、お互いを思いやる雰囲気醸成する)

### ■参考資料

・都市ボランティア活動における感染リスク評価シート (3ページ目ご参照)

### ■提言概要・経緯

新型コロナウイルス感染症への懸念が続く中、都市ボランティアの活動時における感染症予防対策をまとめるため、ボラサポでは、今年7月から9月にかけて計6回の都市ボランティア感染症予防対策研究会を開催しました。二宮参与を座長に、また神奈川県新型コロナウイルス対策本部技術顧問・医学博士(眼感染症)の三宅琢氏を顧問に迎え、各自治体へのヒアリングや、各分野の専門家を招いて議論を重ね、都市ボランティアの活動におけるリスクを評価シートとして洗い出し、それに対する対策をまとめたものを、この度提言として発表いたします。

### 【研究会メンバー】

#### 〈座長〉

二宮 雅也 (日本財団ボランティアサポートセンター 参与、文教大学人間科学部 准教授)

#### 〈副座長〉

金子 裕 (日本財団ボランティアサポートセンター アドバイザー、戦略コンサルタント)

佐々木 興太郎 (ビジネスコンサルタント)

#### 〈メンバー〉

中島 光 (日本財団ボランティアサポートセンター 常務理事)

小澤 直（日本財団ボランティアサポートセンター 常務理事）  
 沢渡 一登（日本財団ボランティアサポートセンター 事務局長）  
 園部 さやか（日本財団ボランティアサポートセンター 事業部 マネージャー）  
 山本 和樹（日本財団ボランティアサポートセンター 事業部 プロジェクトコーディネーター）  
 山田 周（日本財団ボランティアサポートセンター 事業部 プロジェクトコーディネーター）  
 〈顧問〉  
 三宅 琢（神奈川県 新型コロナウイルス対策本部 技術顧問、医学博士（眼感染症））

**【ヒアリング先】（都市ボランティア運営自治体）**

東京都、札幌市、宮城県、福島県、茨城県、埼玉県、千葉県、横浜市、藤沢市、山梨県、静岡県

**【研究会内容】**

開催日時	主な議題／ゲストスピーカー
第1回 7月22日	新型コロナウイルスに対する基本的知識と対策の考え方について ／三宅 琢 氏（神奈川県新型コロナウイルス対策本部技術顧問・医学博士（眼感染症））
第2回 8月11日	イベント主催者の感染症対策について（ボランティアやスタッフ向けの対策） ／川崎フロンターレ・北海道日本ハムファイターズ
第3回 8月21日	基本的な感染症対策について ※みなと保健所でヒアリングした内容を、研究会メンバーから情報共有
第4回 8月26日	日常生活やボランティア活動現場での具体的な感染症対策の実践及び心構えについて ／堀 成美 氏（東京都看護協会 危機管理室 アドバイザー）
第5回 9月8日	コロナ禍におけるボランティア経験者の心境と主催者とのつながりについて ／スポーツボランティア経験者3名
第6回 9月23日	コロナ禍のボランティア活動における主催者の責任について／金山 卓晴氏（弁護士）

**一般財団法人 日本財団ボランティアサポートセンター 概要**

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と日本財団が2017年6月に締結したボランティアの連携・協力に関する協定に基づき、当該協力に係る事業を実施する団体として設立されました。当法人は、ボランティア育成を通じた2020東京大会の成功と、大会後に繋がるボランティア文化の醸成を目指しています。

所在地: 〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル3階 代表者: 渡邊 一利(笹川スポーツ財団 理事長) 設立: 2017年9月29日

【本件に関するお問い合わせ】 日本財団ボランティアサポートセンター 広報部 倉田・小久保  
 携帯: 070-7514-4529 Email: [pr@volasapo.tokyo](mailto:pr@volasapo.tokyo) ※ボラサポでは現在、在宅勤務を実施中です。

## 都市ボランティア活動における感染症リスク評価シート

このリスク評価シートは、日本財団ボランティアサポートセンターが都市ボランティア活動に潜む感染リスクを洗い出し、都市ボランティアを運営する自治体等がとることのできる感染症予防対策の工夫例をまとめたものである。

日本財団ボランティアサポートセンターでは、都市ボランティアを運営する11自治体等へヒアリングを行うことから本リスク評価シートの作成を始め、2020年7月から計6回開催した研究会を通してリスクの見直しをはかり、対策について検討を重ねた。また本研究会の顧問である三宅琢氏（神奈川県 新型コロナウイルス対策本部 技術顧問、医学博士（眼感染症））及び講師としてご登壇頂いた堀成美氏（東京都看護協会 危機管理室アドバイザー）に監修頂いた。

場面		接触感染のリスク	飛沫感染のリスク	感染対策の工夫の例
事前準備	ユニフォーム等受取	ユニフォーム等を手渡しする場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>会場が大勢が一時に集まる</li> <li>集まった人がマスクをはずして近距離で会話する</li> <li>待機列を整理するために大声で案内する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ時間に集合する人の人数を減らすため、集合時間をずらす</li> <li>近い距離で話す場合はマスクをするよう周知する</li> <li>大声を出さなくてよいように、拡声器等を用意する</li> </ul>
	自宅を出る前	自分自身の体調に対する判断（体調不良をおして参加してしまう等）		<ul style="list-style-type: none"> <li>参加前から本人と同居者の体調変化（熱、咳、くしゃみ、鼻水、下痢など）に十分留意し、体調に不安のある場合は無理せず休むことを事前の研修等を通じて伝える</li> <li>ボランティアが休日や夜間も主催者へ連絡がとれるようにし、連絡先を周知しておく</li> </ul>
活動前	移動	公共交通機関での移動		利用時はマスクを着用し、手洗いか手指消毒をする
活動中	受付	体温計の共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>受付を待つ人が大勢いて、受付周辺が混雑する</li> <li>顎にマスクをおろし、近い距離で会話する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近い距離での会話にはマスクを着用</li> <li>一度に受付する人の人数が少なくなるよう、集合時間をずらす</li> <li>検温する場合は非接触型にする。検温する人とされる人の距離が近くなるよう、自動測定器があるとよい</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>ペン等物品の共有</li> <li>その他：机、電話、PC/タブレット、電気のスイッチ</li> <li>資料やパンフレット配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マスクをつけずに大声で案内する</li> <li>近距離で会話する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共有する電話やPC等は、あらかじめ消毒する時間を決めておく（頻度を高くするより実行可能な回数にする）</li> <li>受付デスクに手指消毒剤を設置する</li> <li>受付の手順を簡素化する</li> <li>大声を出さなくてよいように、拡声器等を用意する</li> </ul>
	活動前ミーティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸与する活動グッズ</li> <li>ボランティア同士の握手、ハイタッチ</li> </ul>	マスクをつけずに大声で説明する	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハイタッチに代わる肘タッチなどの代替案を周知する</li> <li>握手やハイタッチをしたら、手を洗ったり、手指消毒したりするよう、活動までに研修等で伝える</li> <li>大声を出さなくてよいように、拡声器等を用意する</li> <li>マスクをつけずに説明する場合、話す人は他の人との距離を1m以上とる</li> <li>距離が取れない場合は、正面に立って会話しないようにしたり、話す人の前にアクリル板等を置いたりする</li> </ul>
	活動中	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真撮影（カメラ、密）</li> <li>落とし物を拾う</li> <li>チラシ等の配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真撮影（掛け声）</li> <li>マスクをはずし、近づいた状態で地図等を見せながら案内する</li> <li>マスクをせずに大声で案内する</li> <li>不特定多数の人たちと会話する</li> </ul> <p>※ボランティアは暑さのためマスクをはずすことが想定される</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>落とし物を扱ったら、手を洗いか手指消毒をする</li> <li>マスクをはずしている間、一定の距離を取るよう周知する</li> <li>写真を撮る人は一定の距離を取って掛け声をかける</li> <li>マスクの着用</li> <li>チラシ等を配布する前に手指消毒をする。</li> </ul>
	休憩中	机・椅子などの共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事時の会話</li> <li>休憩室での隣の人との距離</li> <li>部屋の換気</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>椅子など多くの人が触れる場所の消毒</li> <li>ドアや窓を開け放す</li> <li>「マスクをはずして飲食する場面がもっとも感染リスクが高い」ことと、その対策を事前の研修で十分に伝える</li> </ul> <p>※ボランティアは気持ちの高揚、緊張、疲れなど様々な状態にあることが想定されるため、十分な注意喚起を行う必要あり</p>
活動後	懇親	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ箸を使って取り分ける</li> <li>飲み物の回し飲み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近い距離で、大声で会話する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染拡大の状況に応じて、自粛も検討したり、実施する場合には少人数にするなど、対策を講じるように促す</li> <li>「マスクをはずして、飲食する場面がもっとも感染リスクが高い」ことと、その対策を事前の研修で十分に伝える</li> </ul> <p>※ボランティアは気持ちの高揚、緊張、疲れなど様々な状態にあることが想定されるため、十分な注意喚起を行う必要あり</p>